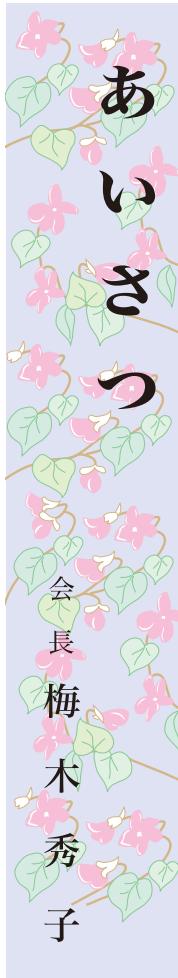


編集発行人

鹿児島大学医学部附属保健婦学校
鹿児島大学医療技術短期大学部専攻科地域看護学特別専攻
鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻
同窓会(しおさい会)

事務局

〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学医学部保健学科
看護・看護情報学講座内
連絡先 会長 梅木秀子
電話 [REDACTED]



暮れの騒々しさから一夜明けて、
穏やかな新しい年を迎えました。
皆様にはお変わりなくお健やかに新
年を迎えたことと存じます。いつも「しおさい会」にご理解とご協
力を頂き感謝いたしております。

昨年は、中国や韓国との領土問題、
それに伴い経済への影響、周辺国の一
リーダーの交代、我が国も政権交代
し、大きく動き出したようです。新しい
政府は経済対策を打ち出し、株
価が上がり、円安になり、活気は感
じますがどのように進むのかわかり
ません。

山中教授のノーベル賞受賞は、こ
れからの再生医療や薬の開発に期待
でき、希望を新たにしている患者さ
んと共に、私も多くの期待してお
ります。若くかつていい先生であり、
お母様を授賞式に同行されたのも素
敵でした。

ロンドンオリンピックでの日本選
手の活躍も素晴らしいものでした。
特に女子の気力と精神力に感動し、
夢と勇気と希望をもらいました。こ
れらを通して日本人の誇りを確かな
ものとして感じました。

今年は「巳」年。巳という字は胎
児の形を表した象形文字で蛇が冬眠
から覚めて地上に這い出す姿を表し
ているといわれ、「起きる・始まる・
定まる」の意味があるとのこと。巳
年にふさわしく、新しい動きが起こ
り、始まり定まって行くことを願い
たいものです。

「しおさい会」も世の中の不況を
感じながらも、節約しながら、会を
運営しております。事業として昨年
は、セミナーをいたしました。「地
域看護のおもしろさ・しんどさ」を
テーマに同窓生が発表し、学生と同
窓生が熱心に意見交換し、「保健師と
は」を分かつてもらえた会でした。
セミナーに参加し、その後保健師の
採用試験を受け、めでたく合格した
学生もいたと聞いております。

さて、第十七回「しおさい会」総
会を今年八月三日城山観光ホテルで
開催いたします。総会時の研修会は
会員による活動報告で仮称「保健師

活動を探る」をテーマに報告と意見
交換を計画しております。保健師活動
はいろいろな場で展開しております
が、最近若い人が訪問看護ステー
ションを開設したり、地域で開業し
ている人もおりこれらの報告を聞き、
意見交換をしたいと思います。そこ
から同窓会の新しい方向性が見える
かなと期待しております。面白い会
になると思っております。

それにもしても同窓会の楽しみは、
時をこえて先生方や同窓生との語ら
いにあると思います。ぜひ時間と体
調を整えられて出席下さいますよう
お願いいたします。

最後になりましたが、皆様にとつ
て健康で幸せな年でありますように
祈りいたします。

第17回しおさい会総会のご案内

日 時 平成25年8月3日(土)

会 場：城山観光ホテル

受 付 9:30

総会・研修会 10:00~12:30

懇 親 会 12:45~15:30

会 費：5,000円

地域看護・看護情報学講座の近況

鹿児島大学医学部
地域看護・看護情報学講座

教授 波多野 浩道

鹿児島大学は、「地域の特性を活かした進取の気風を養う」ことを教育の基本としています。その教育の理念を、しおさい会の諸先輩こそは体現されていることを実感した、この2年でした。

あらゆる領域で、大いなる変革を求められる時代です。2年前にも、その決意を表明しました。しかし、ご承知の通り保健師選択制15名が平成24年度入学生から適用されることになりました。しおさい会の皆様が署名を下さり、困難に敢然と立ち向かう行動力を示して下さり、感謝と共に、

性を活かした進取の気風を養う」ことを教育の基

本としています。その教

育の理念を、しおさい会

の諸先輩こそは体現され

ていることを実感した、

この2年でした。

あらゆる領域で、大いなる変革を求められる時代です。2年前にも、その決意を表明しました。しかし、ご承知の通り保健師選択制15名が平成24年度入学生から適用されることになりました。男性3人となっています。院生も7名中2名が男性です。2人のテーマは

「精神障害者のリカバ

リー」、「科学コミュニケ

これこそ引き継がなければいけない伝統なんだと感得した次第です。

さらに講座の力をつけ

るという点では、幸い、

前回の近況でご紹介しま

した大友先生に続いて、

昨年度、農村保健や介護

予防に取り組んできた、

新任の南部泰士（ひろひ

と）助教を秋田県から迎

え、5人体制ですが、こ

れまで以上に講座内の活

力は出てきています。水

上先生在職時と同様に、

「健康日本21の評価手法」など、多彩です。保健所や市町村からも声がかかることになり、本格的な共同研究とまでは行きませんが、その素地が作られつつあると思います。

教育面では、学部・大学院の教育もさることながら、卒業生の生涯教育でもある保健師現任教育をいかに担っていくのかが課題です。

ショーン」です。因みに、「島嶼看護学」の森博士後期課程3年を初め、他の院生の

テーマも紹介しますと、「アマネージメント」、「小規模事業場のヘルスプロモーション」、「TTM理論による行動変容プログラム」、

「健康日本21の評価手法」など、多彩です。保健

所や市町村からも声がかかることになり、本格的な共

同研究とまでは行きませんが、その素地が作られつつあると思います。

交流できれば院生を交えて

軽に大学に来ていただき、

「島嶼看護学」のゼミの拡大版、

「島嶼看護学」のゼミの拡大版、

「島嶼看護学」のゼミの拡大版、

「島嶼看護学」のゼミの拡大版、

「島嶼看護学」のゼミの拡大版、

「島嶼看護学」のゼミの拡大版、

「島嶼看護学」のゼミの拡大版、



「2012年12月20日 卒業論文発表会（鶴陵会館）」



卒業生
からの
メッセージ

38年間の保健師活動

「出会った方々に只々感謝」



宮園 美恵子(昭和49年卒)

昨年の十一月末、熊本からの同級生二人を含む六名で、恩師である山元郁子先生のお宅にお邪魔さんとのさつま汁等を御馳走になりました。とても美味しくて、おふくろの味と心を味わつたところ

です。私たちには、城山キャンパス最後の卒業で、二十二名中県内出身者は十二名でした。大方が昨年還暦を迎え、私も、三十八年間勤務した県を定年退職しました。この間、鹿屋・西之表・加治木・川内・名瀬保健所に八年間、保健師養成所に七年間、保健師の健康増進、看護行政等の場に十二年間勤務しました。結核患者への家庭訪問や小学校の体育館等で、乳幼児健診等に明け暮れた時代から、地域保健法の施行、保健師の分散

配置等まで非常に大きな変革の時代だつたと思います。本庁の介護福祉課長という貴重な経験をさせてもらえたのは、上司や同僚・後輩保健師のおかげだつたと今更ながら感謝しております。

昨年六月からは、県看護協会の専務理事として働いております。前会長の秋葉会長から、専務理事は行政経験者が適任であるので力を貸してほしいとのお声をいただきました。今は、これまで先輩諸氏が築いてこられたことを土台にして、看護

です。私たちには、城山キャンパス最後の卒業で、二十二名中県内出身者は十二名でした。大方が昨年還暦を迎え、私も、三十八年間勤務した県を定年退職しました。この間、鹿屋・西之表・加治木・川内・名瀬保健所に八年間、保健師養成所に七年間、保健師の健康増進、看護行政等の場に十二年間勤務しました。結核患者への家庭訪問や小学校の体育館等で、乳幼児健診等に明け暮れた時代から、地域保健法の施行、保健師の分散

配置等まで非常に大きな変革の時代だつたと思います。本庁の介護福祉課長という貴重な経験をさせてもらえたのは、上司や同僚・後輩保健師のおかげだつたと今更ながら感謝しております。

昨年六月からは、県看護協会の専務理事として働いております。前会長の秋葉会長から、専務理事は行政経験者が適任であるので力を貸してほしいとのお声をいただきました。今は、これまで先輩諸氏が築いてこられたことを土台にして、看護

協会を取り巻く各種情報を取り集し、課題を見つけ、簿には、ほとんど知っている方のお名前があります。今あるのは、こうした先輩方のお力の積み重ねであると感じます。また、在宅におられる方や、八十歳代でも協会会費を払い続けて下さっている方もおられ、頭が下がります。

専門職とは、職能団体があつて、倫理綱領を持つていることという考え方もありますので是非、保健師の皆様方の入会をよろしくお願いたします。





高田慶子保健師

平成二十四年五月十九日（土）、第五回しおさい会セミナーが開催され、会場は『地域看護のおもしろさ・しんどさ』出逢い・技・醍醐味。これだから保健師はやめられない』とし、学生五十名（保健学科一～四年）、同窓会員二十三名、学校関係者一名、計八十名の方が参加されました。今回から一、二年生も対象として加え、早い時期から

先輩保健師として、鹿児島県姶良保健所の南谷さやか保健師（平成十九年卒）と鹿児島子ども虐待問題研究会副会長の高田慶子保健師（昭和三十九年卒）に発表いただきました。

三年の臨床経験を得て現職三年目の南谷保健師は、保健師活動や災害被災地支援を通して感じた

平成二十四年五月十九日（土）、第五回しおさい会セミナーが開催され、会場は『地域看護のおもしろさ・しんどさ』出逢い・技・醍醐味。これだから保健師はやめられない』とし、学生五十名（保健学科一～四年）、同窓会員二十三名、学校関係者一名、計八十名の方が参加されました。今回から一、二年生も対象として加え、早い時期から

先輩保健師として、鹿児島県姶良保健所の南谷さやか保健師（平成十九年卒）と鹿児島子ども虐待問題研究会副会長の高田慶子保健師（昭和三十九年卒）に発表いただきました。

先輩保健師として、鹿児島県姶良保健所の南谷さやか保健師（平成十九年卒）と鹿児島子ども虐待問題研究会副会長の高田慶子保健師（昭和三十九年卒）に発表いただきました。

第5回

しおさい会セミナー報告

ら保健師活動についての理解を深めてもらう機会となりました。

『臨床で患者さんの地域に帰った後の生活を知りたいと思ったことが保健師を目指すきっかけとなつた。最近になつて、より保健師の仕事の楽しさを感じるようになつた。

それは、市町村保健師や医療機関との連携がこれまで様々な方とのつながりやネットワークの広がりを実感できるようになつたためだと感じている。

また、奄美豪雨災害や東日本大震災の被災地に派遣され、現地の保健師や関係機関と連携しながら被災者訪問や避難所訪問などの支援を行い、被災者の不安や支援者のPTSDを目の当たりにしました。何ができるのか不安もあつたが、

『話を聞いてもらえて楽になつた』と言われ、私もできることがあるのだと感じつつ、技術を高めることの必要性や行動力の大切さを学んだ。』

高田保健師は、看護学校時代から今に至るまで

や経験したことをお話しをを目指す明確なきっかけはなかつたが、看護学校時代に在宅で亡くなつた祖母への死後処置は何か

はなかつたが、看護学校時代に在宅で亡くなつた祖母への死後処置は何か



南谷さやか保健師

やれたという手ごたえを感じ印象に残つてゐる。保健婦学校時代の大迫保健婦からは、住民の悩みを充分に聞き多職種と連携しながら住民を見守り支援していくことが、保健婦のやりがいであると学んだ。第一期産業保健婦として初めて採用された旭化成の堂山保健婦長からは健康教育のイロハを学んだ。生活の拠点を移した大阪で夫の死をきっかけに大阪保健所で働くはじめ、久常看護協会は長から見通しをもつた記録を残すことを、乾保健婦から自分の五感を働かし良く観察して地域に根ざした活動をすることが教わつた。これまで出会つた先輩達からの学びや地域住民との触れあいの中で、保健婦の仕事の魅力に取りつかれていつた。

高齢化社会の入口で先駆的な大阪府松原保健所が全国から注目を浴びるようになり、保健婦活動の醍醐味を味わつた。平

やれたという手ごたえを感じ印象に残つてゐる。保健婦学校時代の大迫保健婦からは、住民の悩みを充分に聞き多職種と連携しながら住民を見守り支援していくことが、保健婦のやりがいであると学んだ。第一期産業保健婦として初めて採用された旭化成の堂山保健婦長からは健康教育のイロハを学んだ。生活の拠点を移した大阪で夫の死をきっかけに大阪保健所で働くはじめ、久常看護協会は長から見通しをもつた記録を残すことを、乾保健婦から自分の五感を働かし良く観察して地域に根ざした活動をすることが教わつた。これまで出会つた先輩達からの学びや地域住民との触れあいの中で、保健婦の仕事の魅力に取りつかれていつた。

高齢化社会の入口で先駆的な大阪府松原保健所が全国から注目を浴びるようになり、保健婦活動の醍醐味を味わつた。平

理事 監事 文責
中村 笹川
聰純子

成八年から十五年まで鹿児島大学の保健学科で保健師を目指す学生に活動魅力を伝える時間をいたしました。保健婦活動は、生きている人々が抱える現実のフレッシュな健康問題と向き合うことで、そこにはいつも新鮮な驚きに戦うエネルギーがある。だからその住民と対峙している保健婦自身も新鮮な気持ちを持ち続けていると感じる。』発表後のディスカッショーンでは、「保健師パワーを感じて興味を持つた」「看護師と保健師の違いがわかつた」「活躍の場の貴重な話をきつかけに広さを知った」など先輩が暖かい初夏の日差しで天候に恵まれ、熱い交流会を行なうことができました。学生が多く見られました。活動な意見交換が行われ、終了後も先輩に質問する貴重な話がたくさんありました。学生が多くの意見交換が行われ、終了後も先輩に質問する貴重な話がたくさんありました。学生が多く見られました。暖かい初夏の日差しで天候に恵まれ、熱い交流会を行なうことができました。

学生参加者の7割以上を3・4年生が占め、より具体的な、熱のこもった質問がやりとりされる充実したしおさい会セミナーとなり、終了後多くの感想がアンケートに寄せられました。保健師のイメージがなかなか描きにくい1・2年生にとっても、まずは「保健師を知る」という貴重な時間となったようです。皆様にも、一部ではありますが、参加学生の生の声をお届けいたします。

- ・保健師になるには様々な価値観を知ることが大切だと感じた。
- ・東日本大震災のボランティアについて興味を持っていたので、そこで保健師の活動の話が印象に残った。
- ・災害保健が身近な奄美という地域で行われ、保健師が活躍していることが印象に残った。
- ・保健師の活動の中に災害保健があると知って興味を持った。
- ・長年保健師の経験がある方から、まだ経験の浅い保健師の方、両方の意見を聞いてよかったです。
- ・産業保健について初めて知り、道が開けたように感じたのでこれから詳しく調べたい。
- ・様々な保健師の生き様や強い思いを知ることができた。
- ・たくさんの話が聞けて、楽しさばかりではないが、小さな喜びやつながりを感じられる職業だと思った。
- ・保健師として何にやりがいを感じるのか、どういった苦労があるのかを知れたので、とても学びになった。
- ・地域の方のことを知ること。向き合うことの大切さ。つながりの大切さ。これらの言葉が何度も出てきて、印象に残った。
- ・何をすればよいかわからず不安でも、まずは自分が出向いて動いてみる。そして、その人の顔を見て、じっくりと耳を傾けて聞いて、その人が何

を必要としているのかを知ることが大事だと知った。

- ・地域の人と関わる上で、人それぞれの生き様を知ることが大切なのだ、という話が印象的だった。時がたつと、地域の人々の価値観、抱えている問題など変わってくるが、それらを人々の生き様を通して理解していきたい。
- ・講師の話を受けて、自分自身がもっと保健師について知らなければならないことを痛感した。もっと基礎知識を持っていたら、的確な質問や意見を述べられたのではないかと思う。
- ・小学生の卒業アルバムの将来の夢に書いてから、ずっと保健師なりたいと思って今までやってきた。家族に医療関係の人がいないのも保健師を目指すきっかけになったのだが、今日の話を聞いて、保健師の皆さん姿を見て、雰囲気を感じて、すごく素敵だ改めて感じた。
- ・保健師は、出会いを大事にし、自分も高めて行ける仕事だと、魅力を感じた。
- ・保健師について新しい視点で見ることができて、保健師という仕事に興味が沸いた。
- ・まだ何も知らない状態だが、先輩方の話を聞いて、考え方や視野が広がった。
- ・普段接する機会の少ない保健師の方の話を聞いて良かった。
- ・保健師の方と接する機会がほとんどない状態だったので、今回の機会があったこと自体が印象に残ることとなった。

この他にも、開催時期や時間、プログラム内容について等、今後の参考になる様々なご意見も頂きました。いただいたご意見を参考に、これからもますます中身の濃い、充実したしおさい会セミナーを企画していくよう、役員一同頑張りたいと思います。

(文責 上林 周英)

私は、専門学校のころの保健センター実習で地域住民の健康を守るために尽力している保健師の姿を見て「保健師」の仕事を興味を持ち大学に編入学しました。しかしながら実際に保健師の方の話を聞く機会は少なく、保健師の思いを知ることは難しいでした。本日は高田先生が産業保健師としての健康教育について話をされていましたが、その中で妊娠計画を成人



看護学専攻4年

片 平 晴 美

第5回

しおさい会セミナーに参加して



活発な意見交換

男性を対象として行つたということに驚きました。このことから、私は型にとらわれずに広い視野を持つて健康教育計画を立てることの重要性を知りました。また、健康問題がある人に対してどのようにして行動変容を促すかといったときに個別性や地域特性を考えるなど、

人を相手にするからこそ臨機応変に対応できるようになければならないということも学ぶことができました。そして、保健師の方々の話を聞いていて共通して大切にしていることは人や関連機関との「つながり」である。保健活動というものは保健師だけで行うより、地域住民や他機関と協力することによってさらには良い結果を得ることができるということをあらためて感じました。

本日の会に参加し、私は保健師の素晴らしさを知ることができました。このような貴重な機会を与えてくださり本当にありがとうございました。

私は鹿児島大学に入学し、授業等で実際に現場で働いておられる保健師の方々のお話を聞く中で、人々がより健康的にいら

れるよう活動する保健師という職業に魅力を感じるようになつていきました。今回のしおさい会セミナーでも、様々な現場で働く保健師の方にお話を聞きたい

の体験談を聞きました。地域住民に密着している保健師には、災害時の住民の避難や災害後の住民への心のケア、生活の支援等の重要な役割を担わなくてはならないということが理解できました。昨年の三月に発生した東日本大震災でも現地の保健師の方々が住民のために活動されたと聞き、災害時に保健師は住民の健康のためにどのような活動をしていくべきなのか、災害時の混乱を防ぐため



活発な意見交換



看護学専攻3年

島 崎 結 夏



活発な意見交換

に日頃からどのような活動をしていけばよいのかということを考えさせられました。また、鹿児島県で虐待防止の活動をなさっている保健師の方のお話を聞きました。今や虐待は社会問題となっています。保健師は地域の母子にも関わる機会が多い職業なので虐待を防止するために積極的に活動しなければならない職業であることを理解しました。

今回のセミナーでは、地域住民のために様々な活動をした体験談を先輩保健師の方々から伺い、保育師という職業の責任とやりがいについて学ぶことができました。今回等に挑みたいと思います。先輩方の貴重なお話を聞くことができ、本当に良かったです。このような学びの機会を提供して頂き、ありがとうございました。



しおさいセミナー「熱心に聞き入る学生」



熊本県南部、人吉盆地に位置し、中央部には清流球磨川をはじめとした豊かな自然と、鎌倉時代から相良氏が七〇〇年守ってきた歴史と文化が共存し発展してきたまちが私が働いている人吉市です。人口三万五千人のまちには、国宝である青井阿蘇神社や国指定史跡の人吉城跡、大村横穴群をはじめ、神社・仏閣、古い



**NEW
FACE!!**

私は、人吉市役所高齢者支援課介護予防係に配属されています。また地域包括支援センターが直営ということもあり、入庁して約五ヶ月、人吉市の保健師また包括支援センターの保健師として介護予防や高齢者中です。

人吉市は今年度、高齢化率が30%を超え約3人に1人は高齢者という超高齢社

街並みなどが点在しております。街を歩けばほとんど出会うのは高齢の方ですが、各地域ごとに町内会長さんや老人会長さん、民生委員さんや高齢者相談員さんなどを中心に地域の見守りネットワークがあるなど地域の繋がりが強いなど感じることができます。老人会やサロンでの健康講話を行う際に感じることは、来られている方々が皆勉強熱心であるということです。思つてもみなかつた質問をされることも多々あり、ギクつとさせられ、何て答えようと悩んだりまた調べてきますと対応していますが、もつともつと勉強が必要だと思い知らされます。

「とにかく地域に出向き、地域の方と直接触れ合いな

熊本県人吉市

久本 麻未(H24年卒)

**とにかく地域に出向き、
地域の方と直接触れ合いなさい**

さい」という先輩保健師の言葉のもと、看護師さんに同行し入院してからほぼ毎日訪問に出て地域の方と触れ合っています。人吉は地元で知っているつもりでいましたが、自分は人吉のことはほとんど知らなかつたんだと訪問をしていて痛感させられました。行つたこのない場所や知らないなかつたまち並みがたくさんあり、日々新しいことの発見です。

人吉は地元で知っているつもりでいましたが、自分は人吉のことはほとんど知らなかつたんだと訪問をしていて痛感させられました。行つたこのない場所や知らないなかつたまち並みがたくさんあり、日々新しいことの発見です。

ともあります。しかし笑顔に出会うことばかりではありません。生活に困つており、介護サービスが必要な方、認知症の方、家族がいらっしゃる方、家族がいても家族の関わりが難しい方、精神疾患のある方など関わりが難しい方もたくさんいらっしゃいます。まずは相手を理解することに奮闘し、本人や家族にとつて何が一番なのか、何が幸せなのかを考えることです。また、高齢者本人やその家族、地域の民生委員



さんをはじめ、介護事業所や医療機関や施設など様々な機関やスタッフの方と関わる機会が多く、他職種とのネットワークや連携の大切さを感じています。その一方でまだ1年目ということもあり自分のスキルのなきない自分に落ち込む日々も多く、毎日自分との格闘ですが、尊敬できる先輩保

士を理解していながらでも多く、毎日自分が受けながら少しずつできることが増えていけばと思います。

入院してすぐに先輩保健師さんが、「住民の方に育てられた」と言つていました。毎日訪問するたびに、新しくことばかりで毎日が勉強だと感じます。これからも1年生2年生も対象として、早い時期からの保健師活動に理解を深めてもらう機会となりました。そして、今年は2年に一度の総会です。多くの同窓生とお会いできることを役員一同楽しみにしております。これからも、同窓生の皆様との繋がりを大切に保健師活動を支える同窓会を目指していきたいと思います。

ニユーフェイス紹介

平成24年

鹿児島大学医学部保健学科
看護学専攻卒業生 しおさい会入会者22名



編集後記

しおさい28号はいかがでしたか。

お忙しい中、早く執筆

にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。しおさいセミナーも

5回目を迎え、今回から

1年生2年生も対象と

し、早い時期からの保健

師活動に理解を深めてら

う機会となりました。そ

して、今年は2年に一度

の総会です。多くの同窓

生とお会いできることを

役員一同楽しみにしてお

ります。これからも、同窓

生の皆様との繋がりを大

切に保健師活動を支え

る同窓会を目指していき

たいと思います。

(文責 松岡 純子)

